

教育目標	
心豊かに たくましく 生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもが心を動かし考えて確かめたり、友達と力を合わせたりして満足感を感じて遊ぶ姿が見られた。日々の保育での安定した人間関係をベースに、様々な経験が自信となり、より意欲を持つようになった。おおむね目標を達成できていると考えられるが、今後、子どもの実態や遊びの見取り方、遊びの状況に合わせた環境の再構成を、教師が学年間で連携を取って行い、心はずませ十分楽しむための指導の在り方を探りたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 伏見住吉幼稚園には園庭に小川でザリガニに触れたり、畑で栽培物を育てたりするなど、自然に触れて遊べる環境が整っている。このような環境を生かして、子どもが遊び、学ぶことを大事にしてほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年8月3日	学校運営協議会理事
最終評価	平成31年1月22日	学校運営協議会理事

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する 保育の改善・充実

具体的な取組 - 子どもたちが主体的に遊ぶ姿から思考力の芽生えの姿を切り口にして、学びに向かう力を育むための、教師の意図した環境構成や援助の在り方について園内で研修する。 - 日々の保育の中での子どもの姿について教職員間で情報を共有する時間を確保し、次どのような手立てを行っていくのかを考え、みんなで共通理解し、日々の保育にあたる。
（取組結果を検証する）各種指標 - 毎月のエピソード作成と育ちの検証や研究保育と研究協議の実施 - アンケート項目「お子さんは安心し、楽しんで幼稚園に通っていますか」、「お子さんは、自分から遊びを見つけて遊んでいますか」の回答

中間評価

	各種指標結果 ・各クラス1つのエピソードを作成し、検証した。研究保育・研究協議は5月に4歳児ことり組、6月に5歳児そら組(小学校と合同)で実施した。 ・アンケート項目「お子さんは安心して、楽しんで幼稚園に通っていますか」は、「そう思う」「大体そう思う」合わせて100%であり、進級や入園を経て、環境が変わったものの、子ども達は幼稚園に慣れて、生活を楽しめるようになってきていることが分かった。 ・アンケート項目「お子さんは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」では、「そう思う」「大体そう思う」が合わせて97%で、ほとんどの保護者がそう感じていることが分かった。
自己評価	分析（成果と課題） ・エピソードについては、それぞれの事例を深く検証することとし、学期ごとに1つのエピソードを作成し、検討することにした。そのことにより、教師の援助や環境構成についてより深めることができた。また、幼小連携の視点から、教師の援助や環境構成がどのように行われているかを小学校に分かりやすく伝えられるようにとエピソードを図示することを試みた。そのことにより、客観的に保育を振り返ることができた。その中で、教師の探求力が大事であることが分かった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、エピソードの作成と検証を続けると共に、分かりやすい図示の方法を考えていく。 ・子どもの姿や思考、言葉などをもとに、子どもの試みや気づきなどをより深めたり、追求したりしていけるように教材研究をし、環境の再構成を繰り返して、保育の充実を図っていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・各学期ごとのエピソード作成と育ちの検証や研究保育と研究協議の実施 ・アンケート項目「お子さんは安心して、楽しんで幼稚園に通っていますか」、「お子さんは、自分から遊びを見つけて遊んでいますか」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 写真には、〇〇しようとしている子とそれを見ているだけの子が映っているが、見ているだけの子に対しても先生が見守っていて、その子に対しても次の手立てとその実施時期を考えているということが分かったのが、親の安心にも繋がってよかった。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 ・各クラス1つのエピソードを作成し、検証した。研究保育・研究協議は11月に全学年、2月に3歳児はな組で実施した。 ・アンケート項目「お子さんは安心して、楽しんで幼稚園に通っていますか」は、「そう思う」「大体そう思う」合わせて99%であり、子ども達は安心して幼稚園生活や遊びを楽しんでいることが分かった。 ・アンケート項目「お子さんは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」は、「そう思う」「大体そう思う」合わせて99%で、前期より2パーセントの伸びがあり、幼稚園での遊びや生活を通して、子どもの成長を感じられていることが分かった。

自己評価	分析（成果と課題） ・研究保育・研究協議をしたり、エピソードを検証したりする中で、遊びの中で育てたい力を念頭において教材を吟味し、教師自身が探求する気持ちを持ち、子どもと一緒に楽しむ教師の姿勢が大切であることが分かった。また、思考力の芽生えを育むためには、教師の援助や環境構成だけでなく、「友達力」ともいえる友達とのかかわりや刺激があることが分かった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・「友達力」を十分に生かせるように子ども同士と繋いだり、かかわりを深めたりしていけるような教師の援助や環境構成を考え、実践していく。 ・単発的な思考力の芽生えの姿だけでなく、長いスパンでの子どもの育ちや教師の援助や環境構成のあり方を追究し、保育の充実を図っていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・おおむね達成できている。引き続き、日々の保育の充実を図っていくと共に、園内研修で学びに向かう力を育むための教師の意図した環境構成や援助の在り方を深めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケート項目「お子さんは安心し、楽しんで幼稚園に通っていますか」、「お子さんは、自分から遊びを見つけて遊んでいますか」は心の安定感があるかどうかということで評価した。１年たったので特に３歳児は安定感があると感じる反面、降園準備では園庭から見ていて落ち着かない感じがするので、その時間帯に補助の人を入れられないか。

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む **幼小接続の視点**

具体的な取組 ・幼小共通のキーワードで作成した『接続期教育課程』を実践し、見直し、策定する。 ・合同研修（研究保育や研究授業の参観、研究協議）や出前授業、幼小交流についての定期的な話し合いの場を、『学びに向かう力を小学校の学びにつなぐ機会』と捉え、思考力の芽生えの姿について、またその姿を育む教師の意図のある援助や環境構成の在り方などについて発信していく。 ・「親子で絵本」（読書ノート）の活用
（取組結果を検証する）各種指標 ・接続期教育課程を見直す研修を持ち、作成する。 ・合同研修や幼小交流保育の実施回数 ・「親子で絵本」での１００冊達成数 ・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の回答

中間評価

各種指標結果 ・『接続期教育課程』は９月以降の作成になっているので今後計画的に研修機会をもち見直しをしていく。 ・合同研修会１回、幼小交流保育５回（うち一回は保幼小交流）の実施ができた。 ・１００冊達成はな組０人　ことり組　そら組３人 ・地域との連携を生かした体験をしていると思うというアンケート結果が８割以上という結果になった。直接かかわることが多い年長児保護者だけでなく、地域との連携を園全体の保護者の方々が感じていることがわかった。
--

自己評価	分析（成果と課題） ・今年合同研修会の回数が減ったことにより、小学校との互いの教育について研修する回数が減ったが、夏季の幼小中合同研修会に幼稚園として参加することができ、小学校、中学校の教育について理解を深めることができた。幼小交流保育に関しては定例会を利用した事前事後の話し合いの時間を確保することができたと共に、子どもたちの気持ちが次の交流に繋がるような工夫を教師同士で考えることができた。学校・園全体で取り組む意識がもてるよう、定例会には幼小連携主任の参加を積極的に促すことができた。 ・幼稚園の絵本貸出で借りた本の記載を教員がすることで、どんな本に興味をもっているかが把握できるだけでなく、絵本１００冊に向けての取り組みに繋がっていると感じる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・定例会を利用し、学校園がそれぞれの教育を理解する機会を今後もつくっていく必要がある。また降園前の話しやホームページで保護者や地域にも幼小連携について取り組み内容だけでなく、そこで育つものについて伝えていくことが大切である。 ・１００冊達成は意識が高い家庭が決まっているので、ホームページを利用して絵本の感想を紹介することを今後も継続していく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・『接続期教育課程』の見直し、作成 ・学びに向かう力を接続していく機会として小学校の研究発表会への参加 ・「親子で絵本」１００冊達成人数 ・アンケート項目「地域との連携を生かした体験が保育に取り入れられていると思いますか」の回答
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケートのＡ評価が、昨年度から比べて一番増えているのが「地域との連携」項目だ。理事の方々の幅広い呼びかけがあって、「花の苗屋さん」等の行事に、小学生だけではなくたくさんの地域の方に来ていただいた。それで、保護者の方も活気を感じてくださったからではないか。地域との連携が進むことで、幼小連携も進めていけるのでは？ 今後も園の行事があれば応援していきたい。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 ・『接続期教育課程』の見直し。 ・ 合同研修会１回、幼小交流保育５回（うち２回は保幼小交流）の実施、小学校研究発表会における研究報告での参加。 ・ １００冊達成現在 はな組５人　ことり組８人　そら組１２人 ・ アンケート項目に対して、「地域との連携を生かした体験ができていると思う」という結果が７割であった。
	分析（成果と課題） ・小学校との合同研究保育、授業の実施や研究発表への参加等色々な機会を利用し、教員レベルでの研修会の実施ができたことが成果である。子どもの姿をもとに学びに向かう力などについて一方的な発信にとどまってしまったことが課題である。 ・アンケート結果８割から７割に落ちたのは、小学校とは継続して交流は行っているが、地域との交

	流が1学期の方がインパクトが大きかったことが理由であるのではないと思う。しかし、前年度と比べると1割弱肯定的評価がアップしている。幼小接続について、子どもたちの育ちをとらえ、保護者にも発信することが今後の課題である。 ・読書ノートの活用は年齢が上がるにつれ、達成数も上がっている。読も聞かせすることで、子どものイメージする力や、語彙力が豊かになることを保護者も感じているようであり、今後も引き続き啓発していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引続き、小学校との連携、地域との連携を継続して行っていく。そしてそのことを降園前の時間を利用するなどして分かりやすく保護者に発信していきたい。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・今年度の各指標はおおむね達成できている。来年度は園内研究も絡めてより幼稚園の教育について保護者や地域への発信力を高めていくことが課題である。
	学校関係者による意見・支援策 ・ハロウween行事交流だけでなく、幼稚園の園内ツアーなどがある時には、児童館の幼児保護者にも呼びかけてみてはどうか。 ・行事交流が定着・拡大してきているので継続してできるように、花の苗屋さんなどこれからも地域の方に呼びかけていきたい。

(3) 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

具体的な取組	
・体を動かして遊ぶ意欲がもてるような園庭や遊戯室などの環境構成の工夫や、少し難しいことに挑戦してみようとする気持ち、達成感が得られるような教材、環境、援助などを保育の年間計画に取り入れる。 ・発達段階に応じた基本的な生活習慣の定着にむけ保健指導を行ったり、自分の力でする喜びを感じたり見通しをもって行動したりできるような指導を行い、保護者に啓発・連携する。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・アンケート項目「幼稚園の環境は子どもが豊かな経験ができるように整えられていると思いますか」の回答 ・保健指導の年間計画の作成と毎月の見直し	

中間評価

各種指標結果	
・幼稚園アンケートでは、幼稚園の環境は子どもが豊かな経験ができるように整えられていると思うと回答した保護者が8割を超えた。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・1学期に親子でつくった竹ぽっくりや一本歯下駄、竹馬などを中心に、興味をもってやってみようという気持ちをもったり、自分と向き合って挑戦したりすることができるよう、発達段階に応じて援助や環境を考えてきた。また、生活や遊びの中で子どもたちが興味をもっていることとつなげ、巧技台などで場を整え、楽しんで体を動かすことができるようにしてきた。保育の様子など降園時に保護者に話をする等していくことで、どんな子どもの姿や援助・環境を今大切にしているか

	ているか、理解につながっていつているのではと感じる。 ・生活習慣は、入園時から個人差が大きく、一人一人に応じて保健職員を含め園全体の教職員が丁寧に個別にかかわり、自分でできたと思えるよう少し手助けをしたり、できたことを十分に認める等してかかわってきたことで、少しずつ自分のことは自分でやろうとする姿が見られてきている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・保健指導の毎月の見直しをし、担任と保健職員とで現状を共有し、その時に応じた援助や環境を工夫する。また、保護者にも降園時やおたより等を活用し、啓発に努め、家庭と連携して基本的な生活習慣の定着を図っていききたい。 ・教員研修を行ったり、保育終了後、子どもの姿を教員間で共有し、次へつながる援助や環境構成について引き続き話し合ったりしていく。また、体を動かして遊ぶことができる環境や援助の工夫などを進んで週案に記載する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・アンケート項目「幼稚園の環境は子どもが豊かな経験ができるように整えられていると思いますか」の回答 ・保健指導の毎月の見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・基本的生活習慣について、排泄は入園した3歳児には課題であり、幼稚園のトイレの環境整備が大切だと思う。園のトイレでは扉にくじらやバラの絵が貼ってあり、子どもたちにはくじらのトイレが人気である。なじみやすい環境づくりをお願いしたい。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 アンケートでは、「幼稚園の環境は子どもが豊かな経験ができるように整えられていると思う」と回答した保護者が6割、大体そう思うと回答した保護者が4割だった。また、生活習慣や自分のことは自分でしようとする習慣が身についてきている、大体そう思うと回答した保護者は9割後半だった。
自己評価	分析（成果と課題） ・マラソンごっこをはじめ、鬼ごっこやドッジボールなど体を動かす遊びを保育に取り入れることで、寒い季節でも戸外で体を動かして遊ぶ楽しさや、体を動かすと温かくなることなどを感じる姿があった。また、うんていや鉄棒、なわとびなど子どもが興味をもっているときに教師が、一緒に遊んだり応援したりしてかかわることで、何度も繰り返し挑戦したり、少しずつできるようになることを喜んだりしていた。そのような日々の保育の中で大切にしていることや、その中の心の育ちなどを丁寧に保護者に発信し、“環境”による保育がどういうことなのか、なぜ大切にしているのかなどをわかりやすく伝えられるよう工夫していききたい。 ・生活習慣については、保健職員による保健指導やその時の子どもの姿に応じて身につけてほしい所を丁寧にかかわることなどで、手洗いうがいや衣服の脱ぎ着、畳み方などが身につけてきたように感じる。また、その時に大切にかかわっていることを降園前やおたよりなどで発信するなどし、家庭と同じ所を大切にかかわることで、より子どもたちの生活習慣が身についたように思う。

学 校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ・今後も、教職員間で子どもの姿や心の育ちなど情報を共有し、その時期の子どもの姿に応じた援助や環境のつくり方を話し合い、保育に取り入れていく。 ・保健職員と現状を共有しながら、その時期の子どもの姿に応じて身につけてほしい生活習慣を考え、そのための援助や環境、保健指導の工夫などを話し合う。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・おおむね達成できている。次年度も子どもの姿を丁寧に見取り、1年間を通して体を動かして遊ぶことが楽しめるような環境を整えられるよう計画する。また、その中で心の育ちも見ながら、その時その時の保育で大事にしていることなどをわかりやすく保護者に伝えていく工夫をしたい。
	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園では竹ぼっくり、一本歯げた、竹馬など年齢に合わせた遊具に挑戦しながら、1年間を通して体を動かして遊ぶことを大切にしている。親子で遊具をつくる大切さを感じる。手洗いうがいや衣服の脱ぎ着、畳み方など、基本的な生活習慣の定着化は大切なことであり、家庭と連携して進めたい。

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組 ・一人一人の子どもたちの姿に応じたかかわりを丁寧に行うとともに、降園時などを利用し保護者と子どもたちの姿について話す時間を持ち、子どもと保護者との信頼関係づくりを行う。 ・発達段階に応じ、十分に友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるような指導の工夫をすると共に、葛藤体験の機会を大切に、相手の気持ちを知ったり自分の気持ちを伝えたりして、折り合いをつけて遊びや生活が進められるように援助する。 ・自分の身の回りの人や物を大切にする気持ち、親しみや感謝の気持ちをもてるよう教師自身が意識して生活を送るなどの援助や環境構成の工夫を行う。
（取組結果を検証する）各種指標 ・アンケート項目「教職員が連携しながら、一人一人の子どもに温かくかかわっていると思いますか」 ・記録やエピソードを通した、子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導についての研修会の実施

中間評価

各種指標結果 ・アンケートでは、教職員が連携しながら、一人一人の子どもに温かくかかわっていると思うと回答した保護者が100%だった。 ・記録やエピソードを通した、子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導についての研修会の実施に関しては、研修会という形ではなかったが、職員間で子どもの姿の共有、そこからどう折り合いをつけて遊ぶかということを考え合った。
自己 ・分析（成果と課題） ・アンケートから、一人一人の教職員が子どもに温かくかかわっていることを感じてもらってい

評価	ることがわかった。結果をふまえ、より一層、園で大切にしていること、教職員が子どもにどのような思いでかかわっているかを、降園後などを利用して保護者に伝える。 子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導について教職員間で話し合うことで、いろいろな視点で指導について考えられた。折り合いをつけて遊ぶということに対してより深められるよう、研修会の実施をしていく必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 - 園で大切にしていること、教職員が子どもにどのような思いでかかわっているかを、降園後などを利用して保護者に伝える際の工夫を考える。 - 子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導についての研修会を実施する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 - アンケート項目「教職員が連携しながら、一人一人の子どもに温かくかかわっていると思いますか」への回答 - 教職員の子どもへのかかわりについて、わかりやすく工夫した保護者への伝達 - 子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導についての研修会の実施
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 例えばザリガニの遊びなど、やりたいことを十分にさせてもらっていて、さらに遊びが広がるように先生にかかわってもらっている。先生の温かなかかわり方が、保護者にも感じられるようになってきていると思う。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 - アンケート「教職員が連携しながら、一人一人の子どもに温かくかかわっているか」という項目に対して、「そう思う」との回答が86%、「大体そう思う」と回答した保護者が14%であった。 - 子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導についての研修会の実施に関しては、研修会という形ではなかったが、職員間で子どもの姿の共有と共に、どう折り合いをつけて遊ぶかということを話合った。
	分析（成果と課題） - アンケートから、中間評価に引き続き、一人一人の教職員が子どもに温かくかかわっていることを保護者に感じてもらっていることがわかった。結果をふまえ、より一層、園で大切にしていること、教職員が子どもにどのような思いでかかわっているかを、降園後などを利用して保護者に伝えることを心掛けることができた。 - 年度末が近づくにつれ、より一層各学年で安心して幼稚園に通う姿が見られるようになり、安心することで自己発揮する姿が見られるようになっている。それを保護者に伝えることで、その子どもが園でどのように自己発揮しているか、あるいは保護者から家庭での子どもの自己発揮はどのような姿があるかということなどを聞くことで、園で自己発揮できる為にはどうすればよいかを考えることができた。 「教職員の子どもへのかかわりについて、わかりやすく工夫した保護者への伝達」については、子どもの姿を中心に、遊びの姿をエピソードのように伝えたり、学級懇談会で写真を見せながら伝えることでより具体的に保護者に伝わるような工夫ができた。 - 子どもが折り合いをつけて遊ぶための指導について、研修という形ではないがその日の子ども

	の姿等を保育後に教職員間で話し合うことができた。学年や個人によって折り合いをつけて遊ぶ姿は異なるが、年中児の半ばから後半にかけて友達と一緒に遊ぶことがより楽しくなってくる時期から、自然と折り合いをつけながら自分たちで遊びを進める姿が見られるようになった。 分析を踏まえた取組の改善 ・子どもが自己発揮したり、折り合いをつけながら遊んだりしている様子を、降園時等で保護者に伝えると共に、家庭での子どもの自己発揮や折り合う姿も共有し、保育に活かせるものとする。 ・安心感が土台となり、自己発揮ができることがわかった。まずは安心感を大切にし、信頼関係の構築を図るよう意識を高めていきたい。 重点目標の達成状況、次年度の課題 ・重点目標は、おおむね達成している。次年度は、より一層子どもの自己発揮や折り合いについて考え、子ども同士高めていけるような場をどう設けていくかを考えることが課題である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生活発表会の劇の内容について、年少児の好きなものになって表現するごっこ遊びから始まって、年長児では自分たちで思いや考えを出し合ってセリフを決めるなど、一つの目的に向かって協力する姿が見られたことわかった。